

4. 中心市街地の動向

本章（第4章）では、事前アンケート（Q3）および（Q6）にて、近隣都市や市内事業者の動向に関心が高いという結果を受け、以下の調査を行なった。

4.1 町田市全体における小売業の動向

本節（第4.1節）では、中心市街地の動向を把握する前に、商業統計および経済センサスのデータを使用し、町田市全体における小売業の動向を捉えるべく以下の分析を行なった。

[調査方法：4.1.1 小売業での近隣都市比較]

この分析では、町田市近隣都市における小売業の動向を大項目レベルで把握することを目的としている。

比較都市：町田市、立川市、八王子市、海老名市

川崎市麻生区、横浜市緑区、横浜市青葉区、相模原市中央区、相模原市南区

データ：商業統計および経済センサス

調査レベル：大項目

調査項目：事業所数、従業者数、年間販売額、売場面積

データ期間：1994年～2007年 および 2012年～2021年

注）2012年にデータ項目の見直しが入っているため、不連続なグラフとなっている。

[調査方法：4.1.2 町田市小売業の中分類における経年変化]

この分析では、町田市内の小売業において、増減している業種を中項目レベルで把握することを目的としている。

データ：経済センサス

調査レベル：中項目

調査項目：事業所数、従業者数、年間販売額

データ期間：2012年～2021年

[調査方法：4.1.3 町田市小売業の小分類における経年変化]

この分析では、町田市内の小売業において、増減している業種を小項目レベルで把握することを目的としている。

データ：経済センサス

調査レベル：小項目

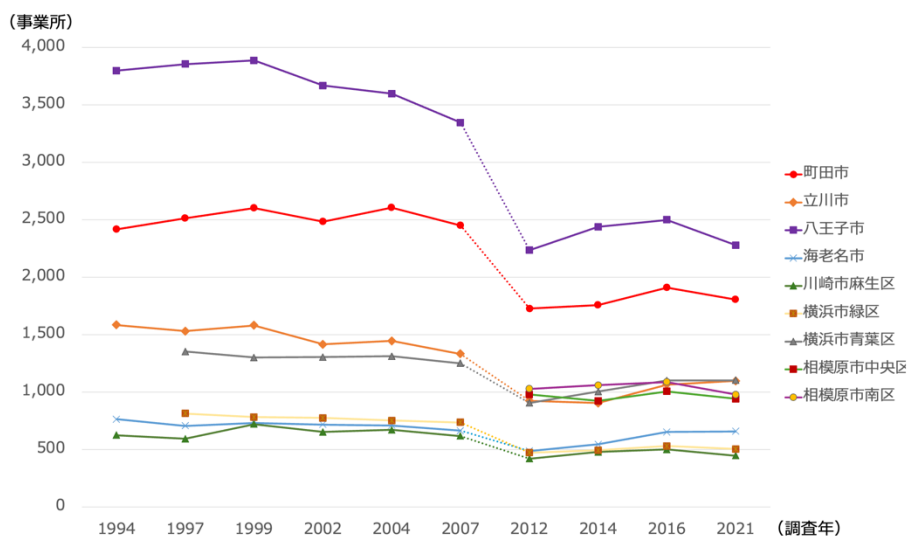
調査項目：事業所数、従業者数

データ期間：2012年～2021年

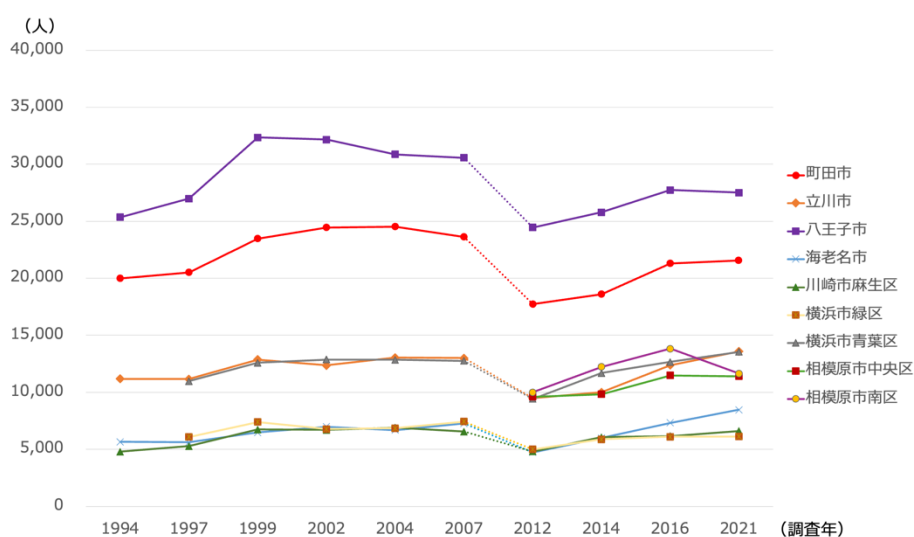
4.1.1 小売業での近隣都市比較

- ・ 事業所数：近隣都市を含め 2012 年以降は大きな変化は見られない。
- ・ 従業者数：近隣都市を含め 2012 年以降増加傾向がみられる。
- ・ 年間販売額：近隣都市を含め 2012 年以降増加傾向がみられる。
- ・ 売場面積：町田市・立川市・海老名市で 2012 年以降増加傾向がみられる。

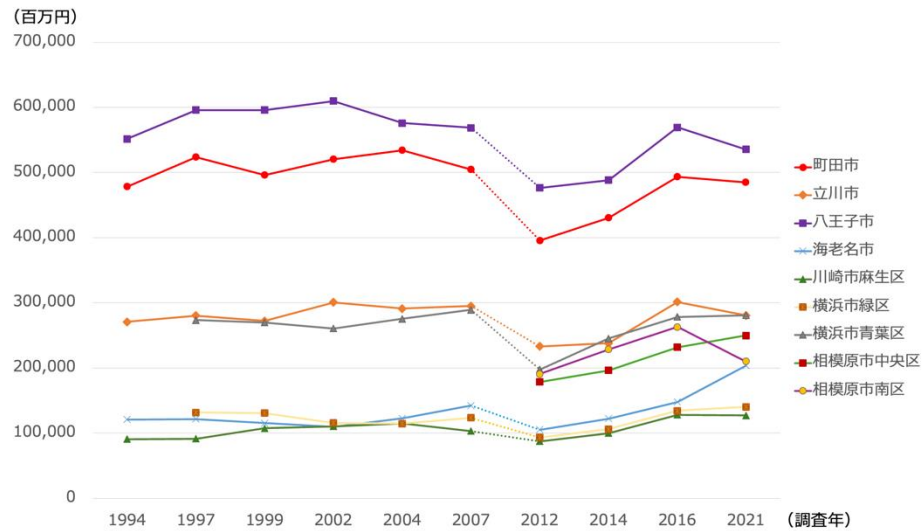
図表 4-1-1(a) 大分類 | 小売業 | 事業所数の推移



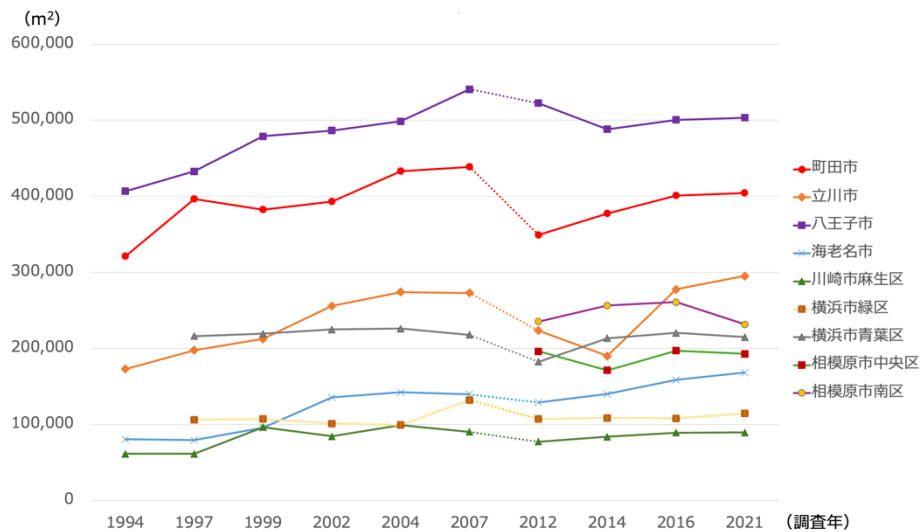
図表 4-1-1(b) 大分類 | 小売業 | 従業者数の推移



図表 4-1-1(c) 大分類 | 小売業 | 年間販売額の推移



図表 4-1-1(d) 大分類 | 小売業 | 売場面積の推移



図表 4-1-1(e) 町田市および近隣都市の状況

町田市	区間1：1994年～2007年				区間2：2012年～2021年			
	1994年	2007年	増減	増減率	2012年	2021年	増減	増減率
事業所数（事業所）	2,416	2,450	34	1.4%	1,728	1,804	76	4.4%
従業者数（人）	19,970	23,626	3,656	18.3%	17,752	21,542	3,790	21.3%
年間販売額（百万円）	478,516	504,840	26,324	5.5%	395,567	484,645	89,078	22.5%
売場面積（m2）	320,916	438,488	117,572	36.6%	349,307	404,544	55,237	15.8%

立川市	区間1：1994年～2007年				区間2：2012年～2021年			
	1994年	2007年	増減	増減率	2012年	2021年	増減	増減率
事業所数（事業所）	1,584	1,332	-252	-15.9%	924	1,097	173	18.7%
従業者数（人）	11,188	13,012	1,824	16.3%	9,494	13,582	4,088	43.1%
年間販売額（百万円）	270,837	295,174	24,337	9.0%	233,260	280,697	47,437	20.3%
売場面積（m2）	172,941	273,043	100,102	57.9%	223,373	295,270	71,897	32.2%

八王子市	区間1：1994年～2007年				区間2：2012年～2021年			
	1994年	2007年	増減	増減率	2012年	2021年	増減	増減率
事業所数（事業所）	3,796	3,344	-452	-11.9%	2,236	2,278	42	1.9%
従業者数（人）	25,349	30,556	5,207	20.5%	24,429	27,518	3,089	12.6%
年間販売額（百万円）	551,775	568,574	16,799	3.0%	476,491	535,614	59,123	12.4%
売場面積（m2）	406,783	540,863	134,080	33.0%	522,529	503,495	-19,034	-3.6%

海老名市	区間1：1994年～2007年				区間2：2012年～2021年			
	1994年	2007年	増減	増減率	2012年	2021年	増減	増減率
事業所数（事業所）	762	662	-100	-13.1%	486	657	171	35.2%
従業者数（人）	5,666	7,277	1,611	28.4%	4,726	8,467	3,741	79.2%
年間販売額（百万円）	121,066	142,249	21,183	17.5%	105,295	203,595	98,300	93.4%
売場面積（m2）	80,213	139,665	59,452	74.1%	129,008	168,096	39,088	30.3%

川崎市麻生区	区間1：1994年～2007年				区間2：2012年～2021年			
	1994年	2007年	増減	増減率	2012年	2021年	増減	増減率
事業所数（事業所）	624	617	-7	-1.1%	420	446	26	6.2%
従業者数（人）	4,802	6,558	1,756	36.6%	4,820	6,610	1,790	37.1%
年間販売額（百万円）	90,911	103,169	12,258	13.5%	87,145	127,203	40,058	46.0%
売場面積（m2）	61,213	90,208	28,995	47.4%	77,229	89,282	12,053	15.6%

横浜市緑区	区間1：1994年～2007年				区間2：2012年～2021年			
	1994年	2007年	増減	増減率	2012年	2021年	増減	増減率
事業所数（事業所）	(N/A)	734	(N/A)	(N/A)	472	504	32	6.8%
従業者数（人）	(N/A)	7,440	(N/A)	(N/A)	4,984	6,131	1,147	23.0%
年間販売額（百万円）	(N/A)	123,567	(N/A)	(N/A)	93,400	140,237	46,837	50.1%
売場面積（m2）	(N/A)	132,097	(N/A)	(N/A)	107,179	114,243	7,064	6.6%

横浜市青葉区	区間1：1994年～2007年				区間2：2012年～2021年			
	1994年	2007年	増減	増減率	2012年	2021年	増減	増減率
事業所数（事業所）	(N/A)	1,249	(N/A)	(N/A)	903	1,102	199	22.0%
従業者数（人）	(N/A)	12,768	(N/A)	(N/A)	9,420	13,540	4,120	43.7%
年間販売額（百万円）	(N/A)	289,272	(N/A)	(N/A)	197,369	281,107	83,738	42.4%
売場面積（m2）	(N/A)	217,837	(N/A)	(N/A)	182,090	214,839	32,749	18.0%

相模原市中央区	区間1：1994年～2007年				区間2：2012年～2021年			
	1994年	2007年	増減	増減率	2012年	2021年	増減	増減率
事業所数（事業所）	(N/A)	(N/A)	(N/A)	(N/A)	978	941	-37	-3.8%
従業者数（人）	(N/A)	(N/A)	(N/A)	(N/A)	9,611	11,405	1,794	18.7%
年間販売額（百万円）	(N/A)	(N/A)	(N/A)	(N/A)	178,579	249,800	71,221	39.9%
売場面積（m2）	(N/A)	(N/A)	(N/A)	(N/A)	196,301	192,912	-3,389	-1.7%

相模原市南区	区間1：1994年～2007年				区間2：2012年～2021年			
	1994年	2007年	増減	増減率	2012年	2021年	増減	増減率
事業所数（事業所）	(N/A)	(N/A)	(N/A)	(N/A)	1,028	977	-51	-5.0%
従業者数（人）	(N/A)	(N/A)	(N/A)	(N/A)	9,999	11,656	1,657	16.6%
年間販売額（百万円）	(N/A)	(N/A)	(N/A)	(N/A)	190,728	210,303	19,575	10.3%
売場面積（m2）	(N/A)	(N/A)	(N/A)	(N/A)	235,262	231,698	-3,564	-1.5%

各都市の特徴をまとめると以下のとおりとなる。

[共通]

- ・ 区間 1（1994 年～2007 年）において、事業所数は微増もしくは減少している中、売場面積は大きく増加している（33.0%～74.1%）。この間、小型店舗が減少し大型店舗が増加したものと推測される。
- ・ 区間 2（2012 年～2021 年）においては、事業所数が増えると売場面積も増え、事業所数が減ると売場面積も減る関係になっており、店舗の大型化に歯止めがかかっていると思われる。
- ・ 2016 年から 2021 年にかけて多くの地域で年間販売額が減少している。2021 年は新型コロナウイルスが蔓延した時期であり、その影響を受けている可能性が高い。

[町田市]

- ・ 区間 1（1994 年～2007 年）、区間 2（2012 年～2021 年）共に、事業所数は横ばい、従業者数、年間販売額、売場面積は増加傾向が見られる。これは人口の増加に伴い従業者が増えたと同時に消費者が増えたものと推測される。

[立川市]

- ・ 区間 1（1994 年～2007 年）において、事業所数が大きく減少（15.9%減）している中、売場面積が大きく増加している（57.9%増）。小型店舗が減少し大型店舗が増加する傾向が強く現れている。
- ・ 区間 2（2012 年～2021 年）において、事業所数の増加（18.7%）、従業者数の増加（43.1%）、売場面積の増加（32.2%）が見られる。これは「ららぽーと立川立飛」をはじめとする商業施設の開業やオフィスビルの建設による働き手の増加が要因と推測される。

[八王子市]

- ・ 区間 1（1994 年～2007 年）において、事業所数が大きく減少（11.9%減）している中、売場面積が増加している（33.0%増）。小型店舗が減少し大型店舗が増加する傾向が現れている。
- ・ 区間 2（2012 年～2021 年）においては傾向が逆転し、事業所数が増加（1.9%増）する中、売場面積が減少している（3.6%減）。売場面積は 2014 年に一旦減少し、その後増加傾向に戻っていることから、「そごう八王子店」など大型店舗閉鎖の影響が考えられる。
- ・ 区間 2（2012 年～2021 年）において、従業者数の増加割合が調査したエリアの中で

最も低い（12.6%）。売場面積が減少していることが要因の一つと考えられる。

[海老名市]

- ・区間 1（1994 年～2007 年）において、事業所数が大きく減少（13.1%減）している中、売場面積が大きく増加している（74.1%増）。小型店舗が減少し大型店舗が増加する傾向が調査エリアの中で最も強く現れている。
- ・区間 2（2012 年～2021 年）においては、すべての項目において大幅に増加しており、従業者数（79.2%増）、年間販売額（93.4%増）は調査エリアの中で最も高い増加率を示している。これは「ららぽーと海老名」をはじめとする大型商業施設の開設、交通インフラの整備、海老名駅周辺の再開発など複合的な要因が考えられる。

[川崎市麻生区]

- ・区間 1（1994 年～2007 年）において、事業所数が減少（1.1%減）している中、売場面積が大きく増加している（47.4%増）。小型店舗が減少し大型店舗が増加する傾向が現れている。
- ・区間 2（2012 年～2021 年）においては、従業者数（37.1%増）および年間販売額（46.0%増）で高い増加率を示している。新百合ヶ丘駅を中心に商業・業務・文化などの都市機能が整備され、商業活動の活性化につながっていると考えられる。

[横浜市緑区]

- ・区間 2（2012 年～2021 年）において、年間販売額が高い増加率（50.1%）を示している。中山駅を中心とした再開発事業が影響している可能性が考えられる。

[横浜市青葉区]

- ・区間 2（2012 年～2021 年）において、従業者数（43.7%）および年間販売額（42.4%）が高い増加率を示している。あざみ野やたまプラーザなど東急電鉄の主要駅が数多く、利便性の良さから商業活動の活性化や新たな企業の進出が増加しているものと考えられる。

[相模原市中央区]

- ・区間 2（2012 年～2021 年）において、事業所数および売場面積が減少しているにも拘らず年間販売額が増加している。ネット販売の増加などが考えられる。

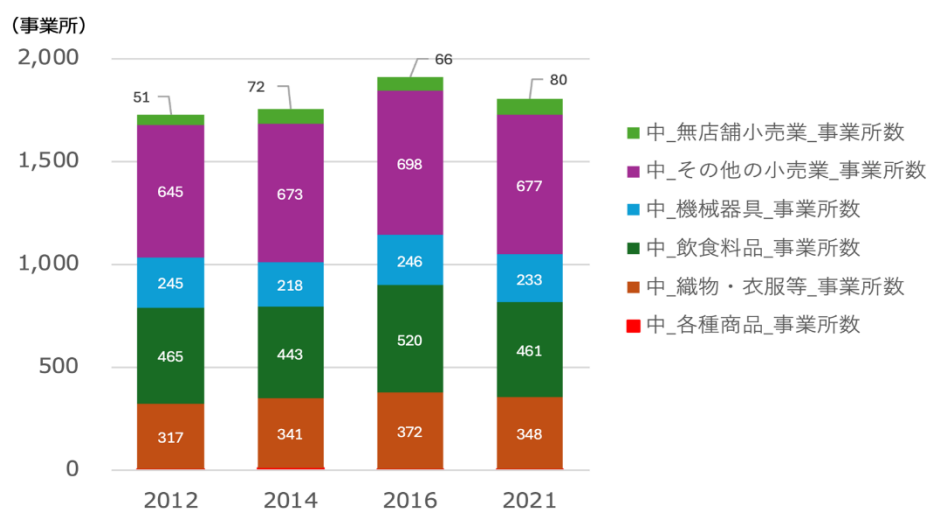
[相模原市南区]

- ・区間 2（2012 年～2021 年）において、事業所数および売場面積が減少しており、従業者数や年間販売額も他のエリアに比べ増加率が低い。特筆すべき要素は見当たらない。

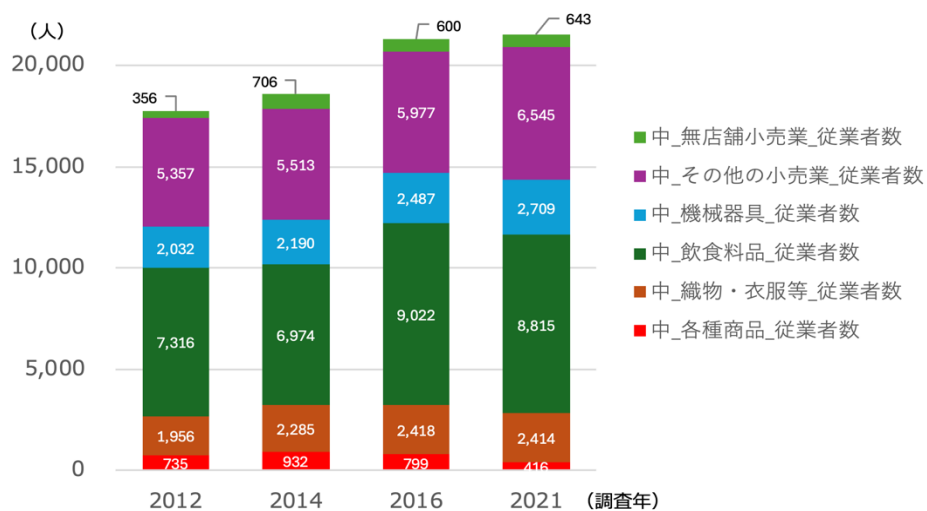
4.1.2 町田市小売業の中分類における経年変化

- ・「飲食料品」「その他の小売業」で従業者数の増加傾向が見られる。
- ・2016年には「無店舗」および「各種商品」以外の業種で年間販売額の増加が見られる。
- ・2021年には「機械器具」「その他の小売業」「無店舗」で年間販売額の増加がみられ、その他の業種は減少に転じている。

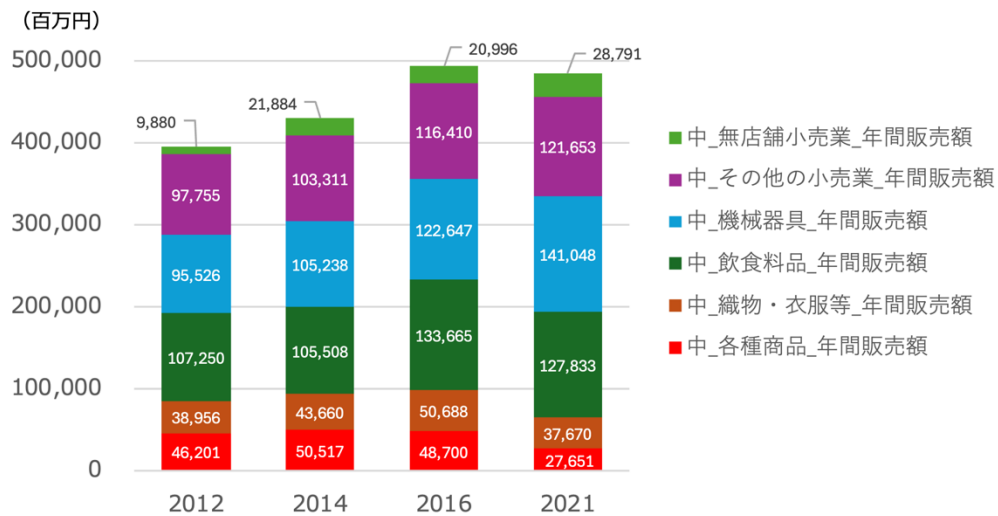
図表 4-1-2(a) 中分類 | 小売業 | 事業所数の推移



図表 4-1-2(b) 中分類 | 小売業 | 従業者数の推移



図表 4-1-2(c) 中分類 | 小売業 | 年間販売額の推移



第 4.1.1 項では、2012 年以降、町田市の小売業全体（大分類レベル）として、①事業所数に大きな変化はないこと、②従業者数および年間販売額には増加傾向が見られること、を確認した。第 4.1.2 項では、その内訳を確認していく。

図表 4-1-2(a)は町田市小売業における事業所数の推移を中分類レベルでまとめたグラフである。2016 年までは全体的に微増、2021 年には微減が見られるが、中分類レベルでも事業所数の大きな変化は確認できなかった。なお「各種商品」の事業所数のデータは小さすぎてグラフに表示されていない¹。

図表 4-1-2(b) は町田市小売業における従業者数の推移を中分類レベルでまとめたグラフである。「飲食料品」「その他の小売業」で従業者数の増加が確認された。その一方で、「各種商品」では 2014 年をピークに従業者数の減少傾向が確認された。

図表 4-1-2(c) は町田市小売業における年間販売額の推移を中分類レベルでまとめたグラフである。2016 年には「無店舗」および「各種商品」以外の業種で年間販売額の増加が確認された。2021 年には「機械器具」「その他の小売業」「無店舗」で年間販売額の増加がみられ、その他の業種は減少に転じている。これは新型コロナウイルスが蔓延した影響により、需要に大きな変化が生じたことが原因と推測される。

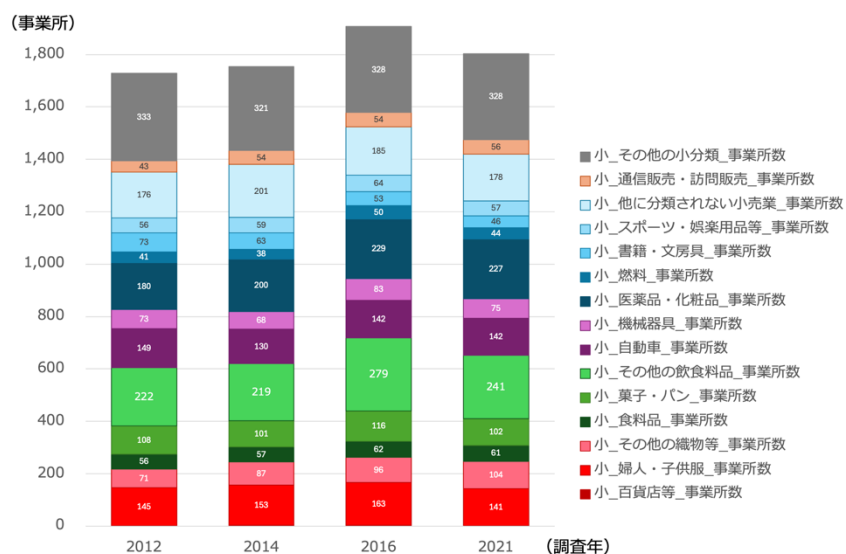
¹ 「各種商品」の事業所数は以下のとおり。

2012 年：5 事業所、2014 年：8 事業所、2016 年：5 事業所、2021 年：5 事業所

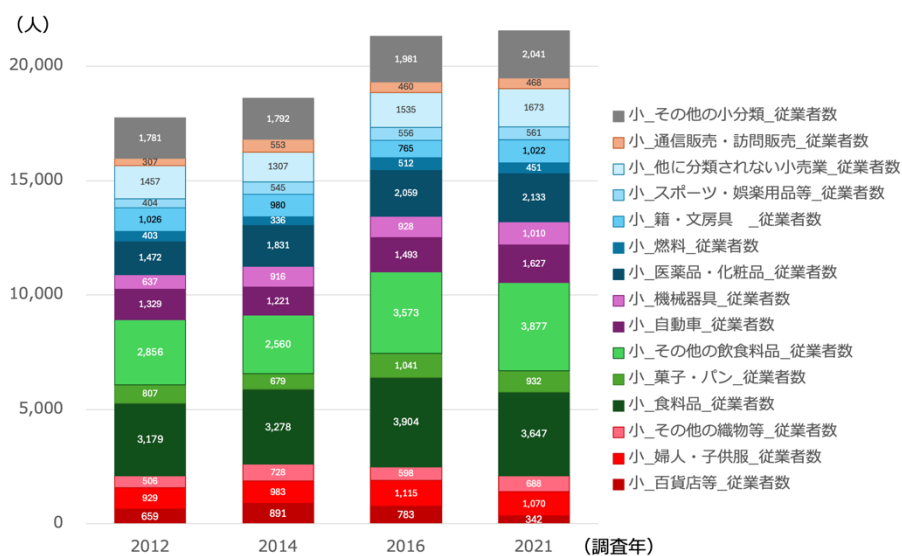
4.1.3 町田市小売業の小分類における経年変化

- ・小分類レベルでは「食料品」「その他の飲食料品」「医薬品・化粧品」の増加が大きい。
- ・「百貨店等」の1事業所あたりの従業者数は他の業種と比較して突出しているが、年々減少傾向にある。

図表 4-1-3(a) 小分類 | 小売業 | 事業所数の推移



図表 4-1-3(b) 小分類 | 小売業 | 従業者数の推移



図表 4-1-3(c) 小分類 | 小売業 | 1 事業所あたりの従業者数の推移

調査年	2012年	2014年	2016年	2021年	2021年 /2012年
百貨店等	329.5	222.8	261.0	171.0	52%
婦人・子供服	6.4	6.4	6.8	7.6	118%
その他の織物等	7.1	8.4	6.2	6.6	93%
食料品	56.8	57.5	63.0	59.8	105%
菓子・パン	7.5	6.7	9.0	9.1	122%
その他の飲食料品	12.9	11.7	12.8	16.1	125%
自動車	8.9	9.4	10.5	11.5	128%
機械器具	8.7	13.5	11.2	13.5	154%
医薬品・化粧品	8.2	9.2	9.0	9.4	115%
燃料	9.8	8.8	10.2	10.3	104%
書籍・文房具	14.1	15.6	14.4	22.2	158%
スポーツ・娯楽用品等	7.2	9.2	8.7	9.8	136%
他に分類されない小売業	8.3	6.5	8.3	9.4	114%
通信販売・訪問販売	7.1	10.2	8.5	8.4	117%
その他の小分類 (*)	5.3	5.6	6.0	6.2	116%

(*) その他の小分類：従業員の総数が 500 人未満の小分類をまとめたもの

第 4.1.2 項では、町田市の小売業の構造変化を中分類レベルで確認し、①「飲食料品」「その他の小売業」で従業者数の増加傾向が見られること、②2016 年には「無店舗」および「各種商品」以外の業種で年間販売額の増加が見られること、③2021 年には「機械器具」「その他の小売業」「無店舗」で年間販売額の増加がみられ、その他の業種は減少に転じていること、を確認した。第 4.1.3 項では、その内訳を小分類レベルで確認した。

図表 4-1-3(a)は町田市小売業における事業所数の推移を小分類レベルでまとめたグラフである。2014 年に全体的に増加、2021 年には全体的に減少が見られるが、事業所数に関しては大きな変化は見られない。なお図表 4-1-3(a) において「百貨店等」の事業所数のデータが小さすぎてグラフに表示されていない²。

図表 4-1-3(b)は町田市小売業における従業者数の推移を小分類レベルでまとめたグラフ

² 「百貨店等」の事業所数は以下のとおり。

2012 年：2 事業所、2014 年：4 事業所、2016 年：3 事業所、2021 年：2 事業所

である。小分類では「食料品」「その他の飲食料品」「医療品・化粧品」の増加が大きいことが確認された。

図表 4-1-3(c)は町田市小売業における 1 事業所あたりの従業者数の推移を小分類レベルでまとめた表である。「百貨店等」の 1 事業所あたりの従業者数は他の業種と比較して突出しているが、年々減少傾向にある。2014 年のデータで「百貨店等」と「婦人服・子供服」と比較してみると、「百貨店等」4 事業所で「織物・衣類等」153 事業所の 90.6% (891/983) を雇用していることになる。「百貨店等」が大きな雇用の受け皿となっていることが分かる。

次いで「食料品」の 1 事業所あたりの従業者数が多いことが見て取れるが、これはスーパーマーケットなどの大規模店舗が中心となっていると推測される。その他の業種は概ね中型から小型の店舗で運営されていると思われる。

また、「百貨店等」では 2021 年における 1 事業所あたりの従業者数が 2012 年比で 52% に減少している。これは業態転換や事業規模の縮小もしくは労働生産性向上策による省力化が図られているものと推測される。

また「機械・器具」や「書籍・文房具」で 150%を超える増加率を示しているのは、事業所数が減った割に従業者数が変化しないためであり、小型店の割合が減り大型店の割合が増加したものと推測される。

「医療品・化粧品」は事業所数および従業者数共に増加しているため 1 事業所あたりの従業者数は大きく変化していない。この理由としては、ドラッグストアなどが多店舗展開していることが推測される。

4.2 中心市街地における産業構造の変化

- ・大分類：中心市街地で事業所減少の割合が高くなっている。特に、飲食店と販売・卸でその傾向が強く現れている。
- ・中分類：中心市街地では「繊維・衣料」「食料品・嗜好品」「化粧品・装身具・装飾品・民芸品」事業所減少の割合が高くなっている。
- ・中分類：中心市街地では唯一「コンビニエンスストア」が増加している。
- ・中分類：町田市全域および中心市街地で「スナック・バー・酒場」の減少が激しい（減少のうち中心市街地が 74.7%を占めている）。
- ・中分類：町田市全域で「マッサージ・鍼灸・各種療法」が減少している。
- ・中分類：町田市全域で「薬局・薬店」「病院・医院・クリニック」が増加している。

本節では、RESAS（地域経済分析システム | まちづくりマップ | 事業所立地動向）のデータを使用し、町田市における全産業の変化を捉えるべく以下の分析を行なった^{3 4}。

この分析では町田市全域および中心市街地における各業種の変化を対比しながら、中心市街地の課題を見出すことを目的としている。

[調査方法：4.2 中心市街地における産業構造の変化]

データ：RESAS（まちづくりマップ | 事業所立地動向）

調査レベル：大分類（全産業）、中分類（販売・卸、飲食店、メディカル&ヘルスケア）

調査項目：事業所数

データ期間：2011 年～2023 年

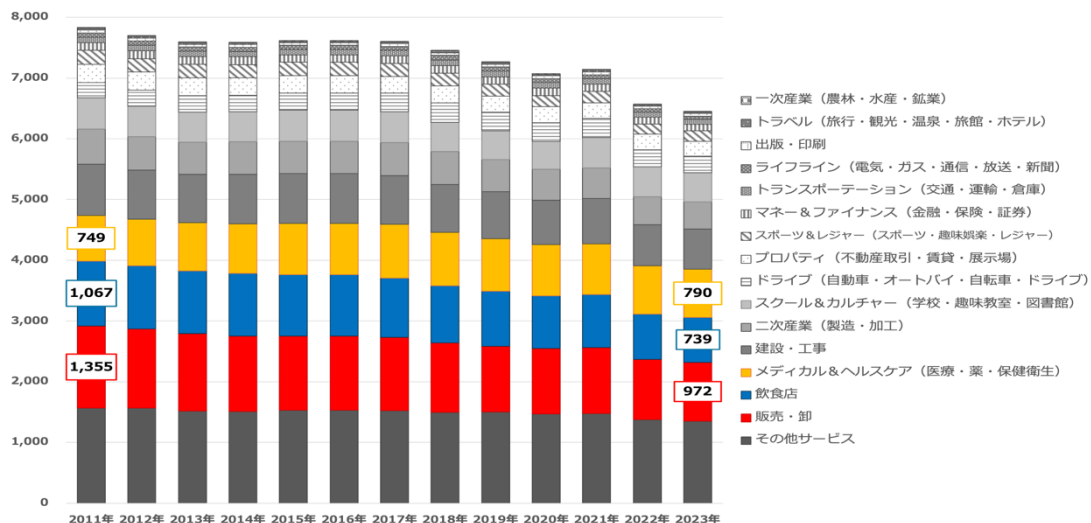
なお第 4.2 節の分析では、およそ右図の範囲を「中心市街地」として指定した。



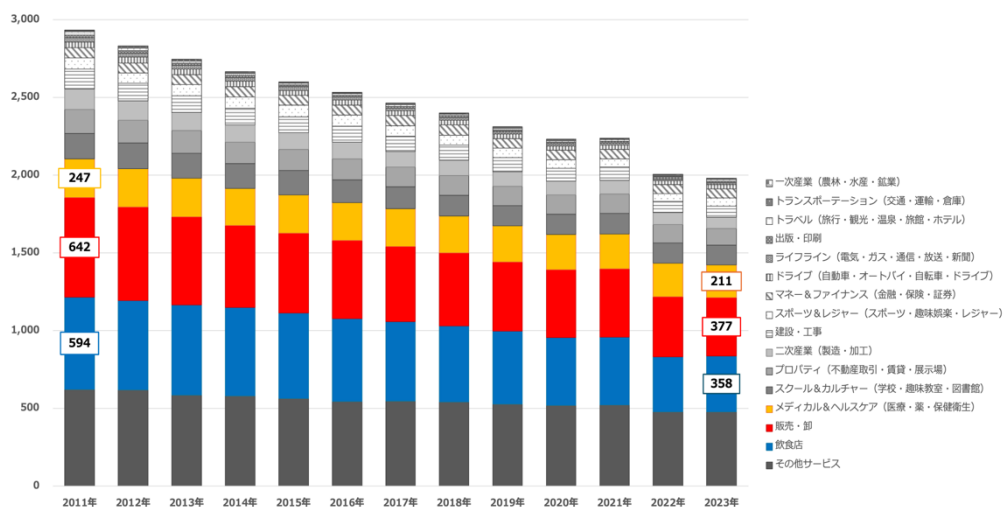
³ 電話帳データを元になっているため全ての事業所は把握できず、経済センサスのデータと比べ 1/2 程度のカバー率と推定される（カバー率は業種によっても異なると思われる）。

⁴ 事業所立地動向のデータから把握できるのは事業所数だけで、事業所の規模（従業員数等）は把握できない。故に事業所数だけで業種の浮き沈みを判断できるものではない。

図表 4-2(a) 町田市全域 | 大分類 | 事業所数の推移



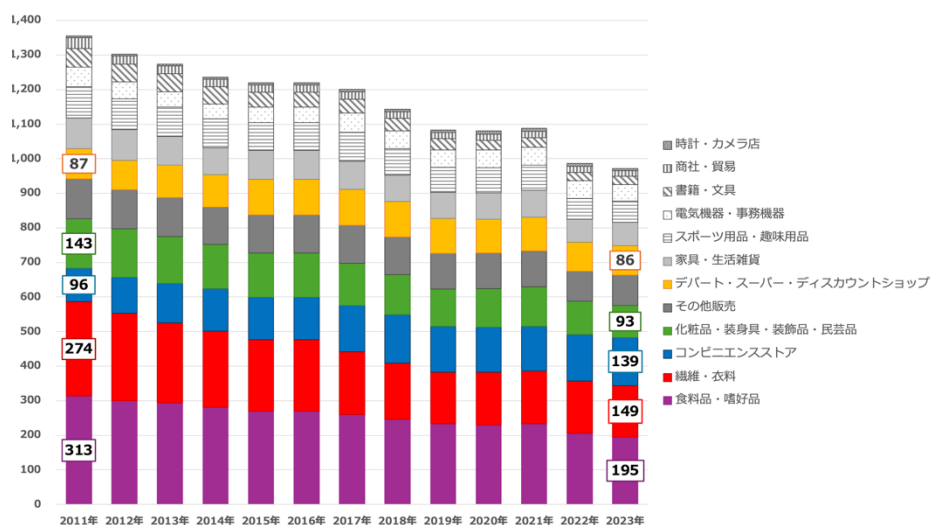
図表 4-2(b) 中心市街地 | 大分類 | 事業所数の推移



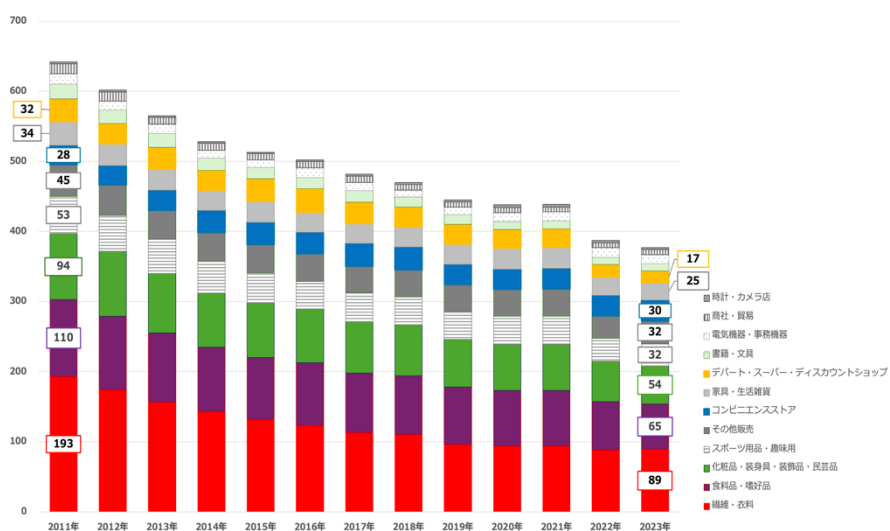
図表 4-2(a) と図表 4-2(b)は、町田市全域と中心市街地における全産業の事業所数推移を大分類レベルで調査したものである。

町田市全域では全体的に緩やかな減少傾向であるのに対し、中心市街地では減少の割合が高くなっている。特に、飲食店 (青色) と販売・卸 (赤色) でその傾向が強く現れている。次項から、その内訳を中分類レベルで確認する。

図表 4-2(c) 町田市全域 | 中分類 | 小売・卸 事業所数の推移



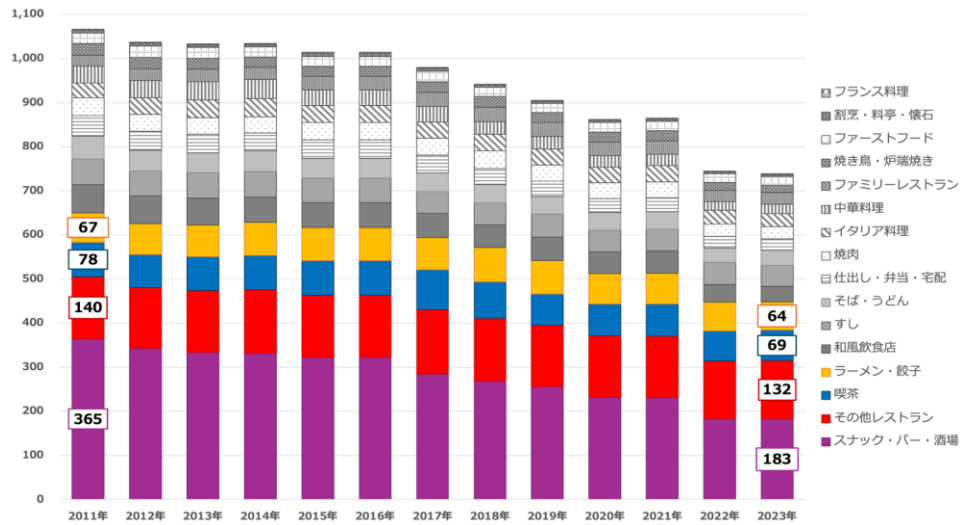
図表 4-2(d) 中心市街地 | 中分類 | 小売・卸 事業所数の推移



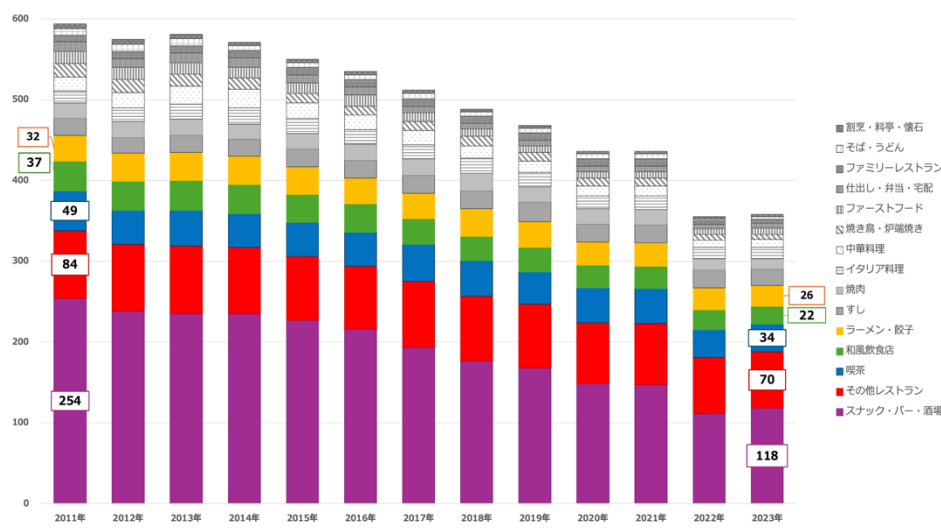
図表 4-2(c) と図表 4-2(d)は、町田市全域と中心市街地における「小売・卸」の事業所数推移を中分類レベルで調査したものである。

中心市街地で大きく減少していた業種の内訳は、「繊維・衣料」「食料品・嗜好品」「化粧品・装身具・装飾品・民芸品」であることが分かる。なお中心市街地で唯一増加したのが「コンビニエンスストア」であった。因みに「コンビニエンスストア」は町田市全域でも増加の割合が高い。

図表 4-2(e) 町田市全域 | 中分類 | 飲食店 業所数の推移



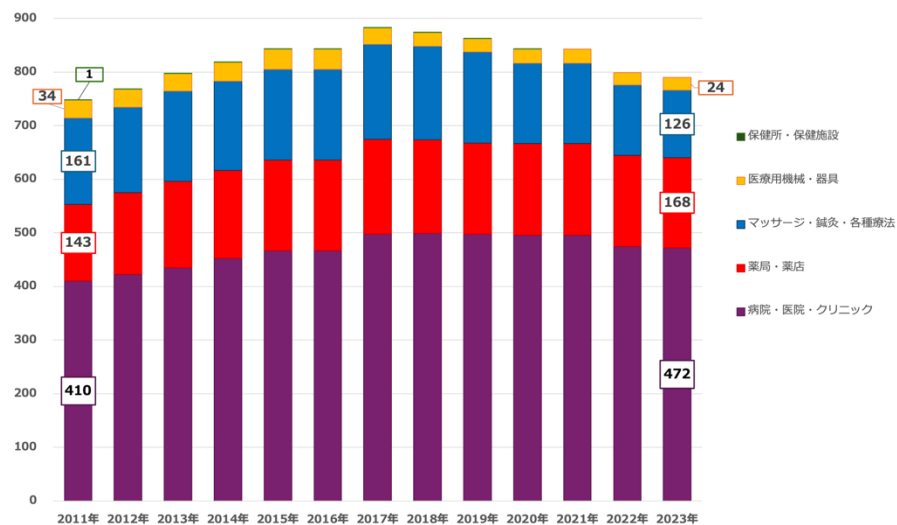
図表 4-2(f) 中心市街地 | 中分類 | 飲食店 事業所数の推移



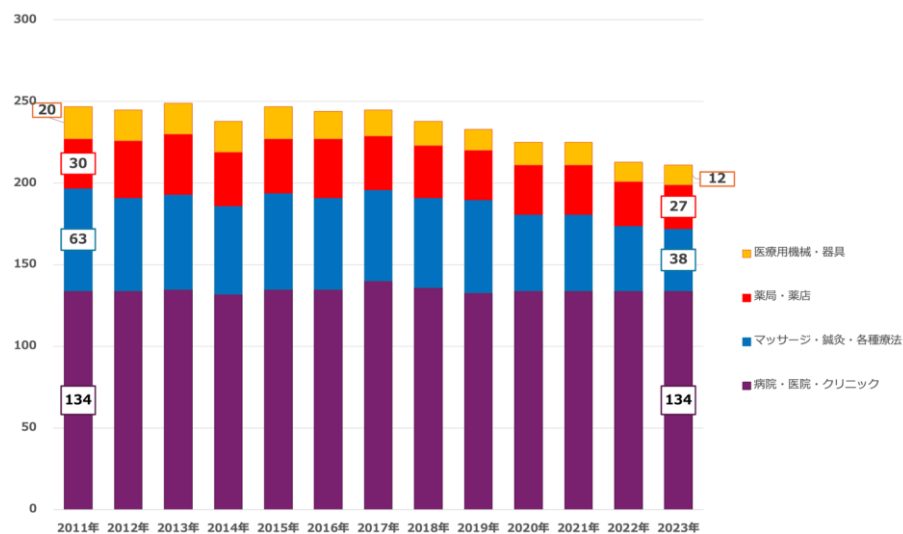
図表 4-2(e) と図表 4-2(f)は、町田市全域と中心市街地における「飲食店」の事業所数推移を中分類レベルで調査したものである。

町田市全域および中心市街地で「スナック・バー・酒場」の減少が激しい。町田市全域では182（365-183）店舗減少しているが、そのうち136（254-118）店舗は中心市街地での減少であることが分かる（減少のうち中心市街地が74.7%を占めている）。他の飲食店は減少傾向ではあるものの、程度は高くない。

図表 4-2(g) 町田市全域 | 中分類 | メディカル&ヘルスケア 事業所数の推移



図表 4-2(h) 中心市街地 | 中分類 | メディカル&ヘルスケア 事業所数の推移



図表 4-2(g) と図表 4-2(h)は、町田市全域と中心市街地における「メディカル&ヘルスケア」の事業所数推移を中分類レベルで調査したものである。

町田市全域では上昇傾向から減少傾向に転じているが、中心市街地では全体的に減少傾向を示している。町田市全域で減少している業種をみると「マッサージ・鍼灸・各種療法」の割合が高く、「薬局・薬店」「病院・医院・クリニック」は上昇傾向を示している。中心市街地でも「マッサージ・鍼灸・各種療法」の減少割合は高い。

4.3 中心市街地および近隣主要駅周辺の流動人口動向

本節前半（第 4.3.1 項）では RESAS（まちづくりマップ | 流動人口メッシュ）のデータを用い、中心市街地における人の流れ（流動人口）を分析し、エリアごとの特徴を見出すことを目的としている。本節後半（第 4.3.2 項）では同様に RESAS（まちづくりマップ | 流動人口メッシュ）のデータを用い、近隣主要駅周辺における人の流れ（流動人口）を分析し、地域ごとの特徴を見出すことを目的としている。

[調査方法：4.3.1 中心市街地における流動人口動向]

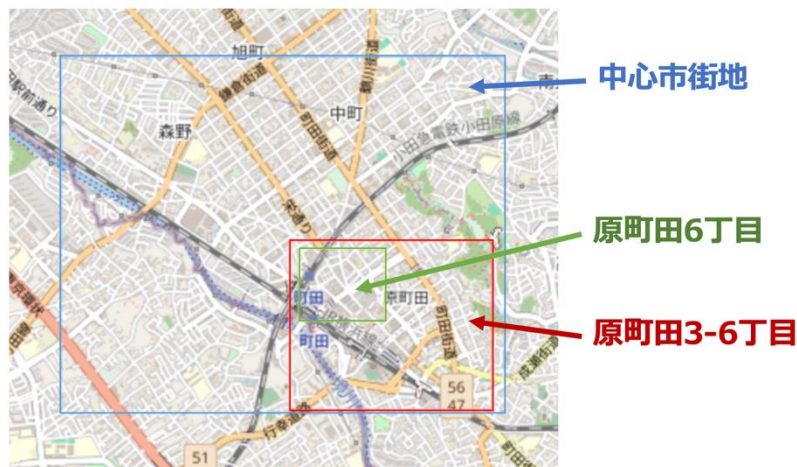
この分析では中心市街地における流動人口を 3 つのエリアで捉え対比することで、中心市街地の課題を見出すことを目的としている。

データ：RESAS（まちづくりマップ | 流動人口メッシュ）

調査項目：流動人口（時間帯別）

データ期間：2013 年～2023 年

なお第 4.3.1 項の分析では、およそ以下の範囲を「中心市街地」「原町田 3-6 丁目」「原町田 6 丁目」として指定した。



[調査方法：4.3.2 近隣主要駅周辺の流動人口動向]

この分析では 4 つの主要駅周辺における流動人口を捉え対比することで、町田駅周辺の課題を見出すことを目的としている。

データ：RESAS（まちづくりマップ | 流動人口メッシュ）

調査項目：流動人口（時間帯別）

データ期間：2013 年～2023 年

なお第 4.3.2 項の分析では、およそ以下の範囲を「町田駅周辺」「八王子駅周辺」「立川駅周辺」「海老名駅周辺」として指定した。

【 町田駅周辺 】



【 八王子駅周辺 】



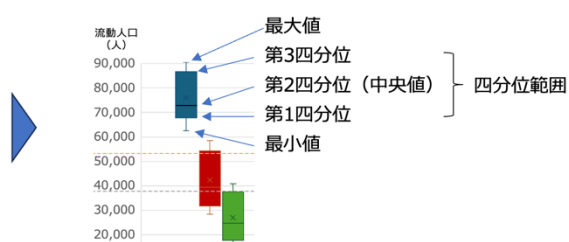
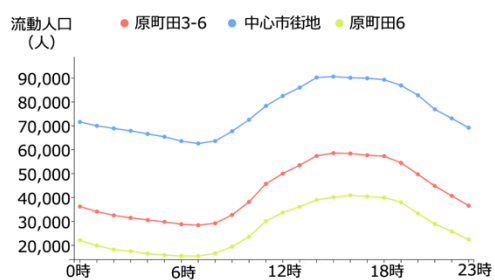
【立川駅周辺】



【海老名駅周辺】



[参考 | 箱ヒゲ図について]



箱ヒゲ図はデータを4つの領域に分け、バラツキを表現する手法。第1四分位から第3四分位までの高さに箱（四分位範囲）を描き、中央値で仕切りを描いたもの。

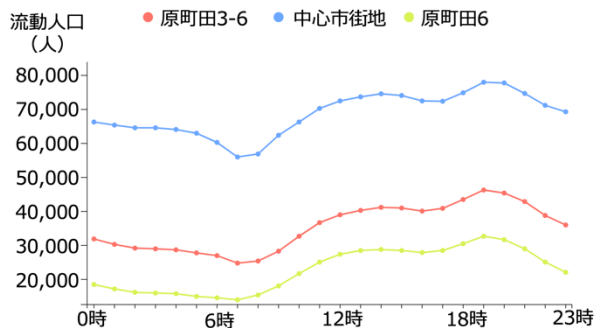
4.3.1 中心市街地における流動人口動向

- ・ 平日：2013 年および 2018 年では夕刻にピークが見られる。
→ 仕事帰りに飲食や買い物で立ち寄る人が多かったと思われる。
- ・ 平日：2023 年では夕刻にピークが見られない。
→ ライフスタイルの変化や新型コロナウイルスの影響で飲食や買い物客が減少したものと思われる。
- ・ 平日：2018 年は 2013 年に比べ深夜の流動人口が 8,000 人程度減少。
→ ライフスタイルの変化により帰宅時間が早まったと思われる。
- ・ 平日：2023 年は 2018 年に比べ深夜の流動人口が 2,000 人程度減少。
→ 新型コロナウイルスの影響で夜間の飲食客が減少したと思われる。
- ・ 休日：休日は夕刻のピークは見られない。
- ・ 休日：日中のピークは平日に比べて 5,000 人～8,000 人程度多い。
→ プライベートで日中に訪れる人が多いと思われる。
- ・ 休日：深夜の流動人口は平日と大差は見られない。
→ 深夜の行動パターンは平日と休日で大差がないものと思われる。
- ・ 共通：「原町田 6」以外のエリアでは流動人口はほぼ変化していない。
→ 「原町田 6」以外のエリアには、外部からの流入者が流れていない。
- ・ 共通：新型コロナウイルスの流行が始まった 2020 年に流動人口が大きく減少し、少なくとも 2023 年までは流行前のレベルに回復できていない。
→ 新型コロナウイルスの影響で人々のライフスタイルそのものが変化した可能性が考えられる。

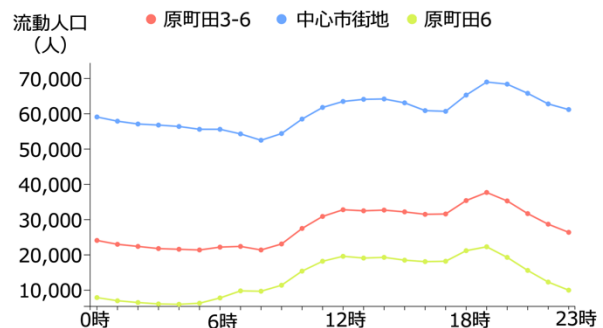
第 4.3.1 項では、中心市街地を以下の「中心市街地」「原町田 3 丁目-6 丁目」「原町田 6 丁目」の 3 つのエリアで捉え、流動人口の経年変化（2013 年、2018 年、2023 年）を平日と休日に分けて分析した。データはいずれの年も 6 月のものを使用している。

また、新型コロナウイルスの影響を確認するため、2019 年～2023 年の 6 月と 12 月のデータを用いて流動人口の分析を行った。

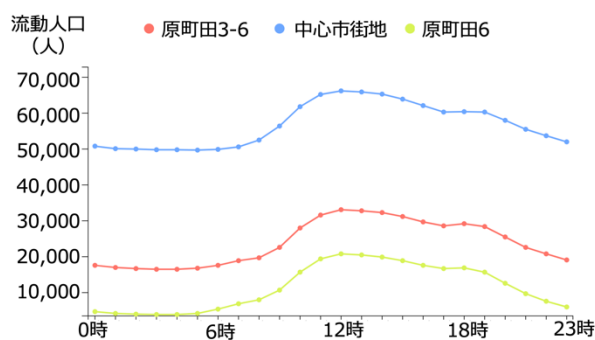
図表 4-3-1(a) 流動人口推移
2013 年 6 月 | 平日



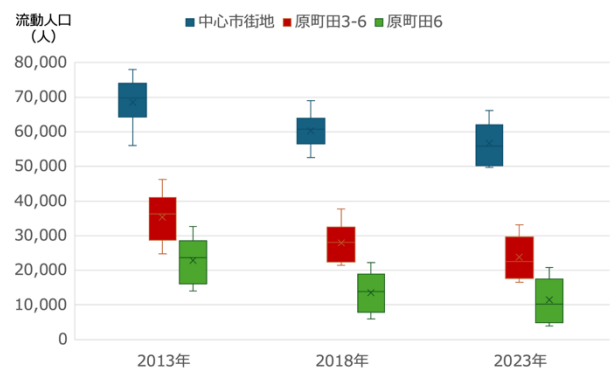
図表 4-3-1(b) 流動人口推移
2018 年 6 月 | 平日



図表 4-3-1(c) 流動人口推移
2023 年 6 月 | 平日



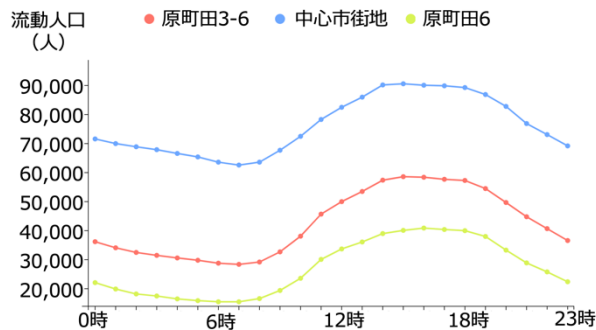
図表 4-3-1(d) 流動人口推移
2013 年～2023 年 | 平日



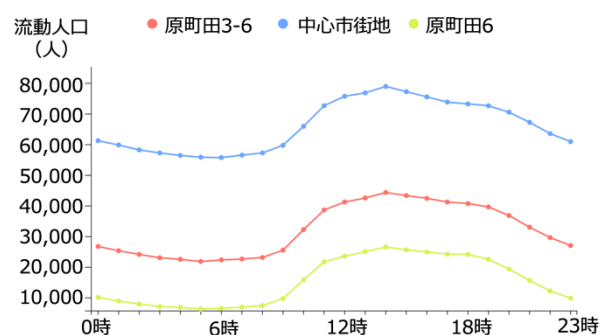
図表 4-3-1(a) 、図表 4-3-1(b)、図表 4-3-1(c)は、中心市街地における流動人口を「中心市街地エリア」「原町田 3 丁目-6 丁目エリア」「原町田 6 丁目エリア」の 3 つのエリアで捉えたものである。データは 2013 年 6 月、2018 年 6 月、2023 年 6 月の「平日」のものをを用い経年変化を確認した。また図表 4-3-1(d)は、調査した 3 年分のデータの経年変化を確認し易いよう箱ヒゲ図で表したものである。

図表 4-3-1(a) (2013 年 6 月平日) および 図表 4-3-1(b) (2018 年 6 月平日) では、共に夕刻 (18 時-20 時頃) にピークが見られる。両者の違いは深夜 (0 時~6 時) の流動人口で、後者は前者に比べ 8,000 人程度少なくなっている。これは図表 4-1-4(f) で示した「スナック・バー・酒場」が減少していることと関連性が高いものと推測される。また図表 4-3-1(c) (2023 年 6 月平日) では夕刻のピークが消え、深夜の流動人口がさらに 2,000 人程度減少している。これは新型コロナウイルス感染症の影響が多大であると考えられる。

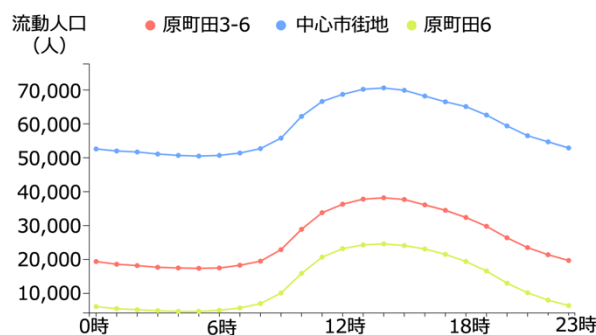
図表 4-3-1(e) 流動人口推移
2013 年 6 月 | 休日



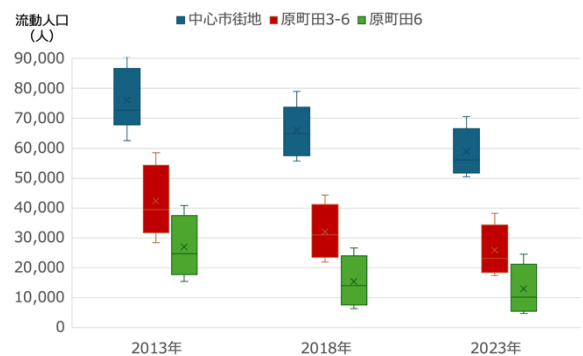
図表 4-3-1(f) 流動人口推移
2018 年 6 月 | 休日



図表 4-3-1(g) 流動人口推移
2023 年 6 月 | 休日



図表 4-3-1(h) 流動人口推移
2013 年～2023 年 | 休日

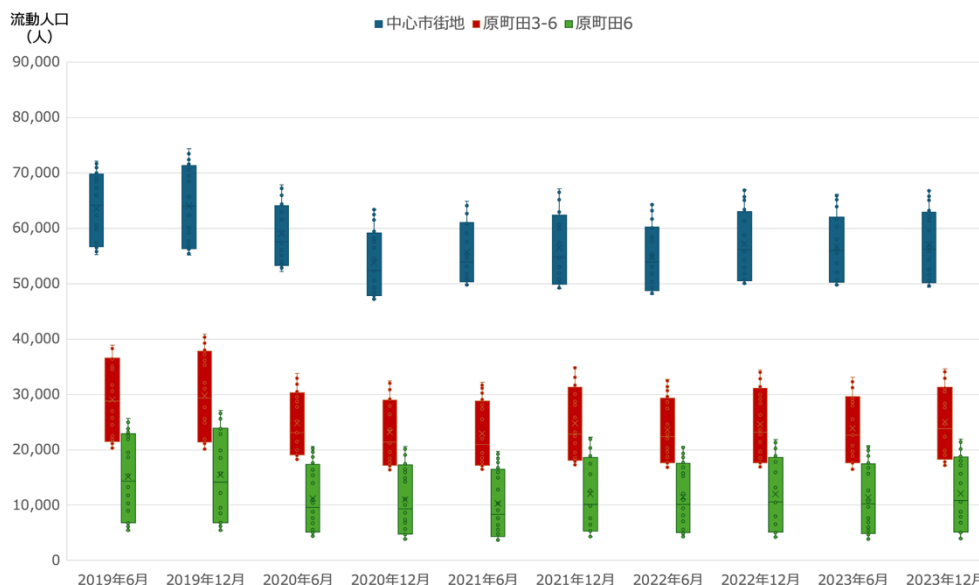


図表 4-3-1(e) 、図表 4-3-1(f)、図表 4-3-1(g)は、中心市街地における流動人口を「中心市街地エリア」「原町田 3 丁目-6 丁目エリア」「原町田 6 丁目エリア」の 3 つのエリアで捉えたものである。データは 2013 年 6 月、2018 年 6 月、2023 年 6 月の「休日」のものを用い経年変化を確認した。また図表 4-3-1(d)は、調査した 3 年分のデータの経年変化を確認し易いよう箱ヒゲ図で表したものである。

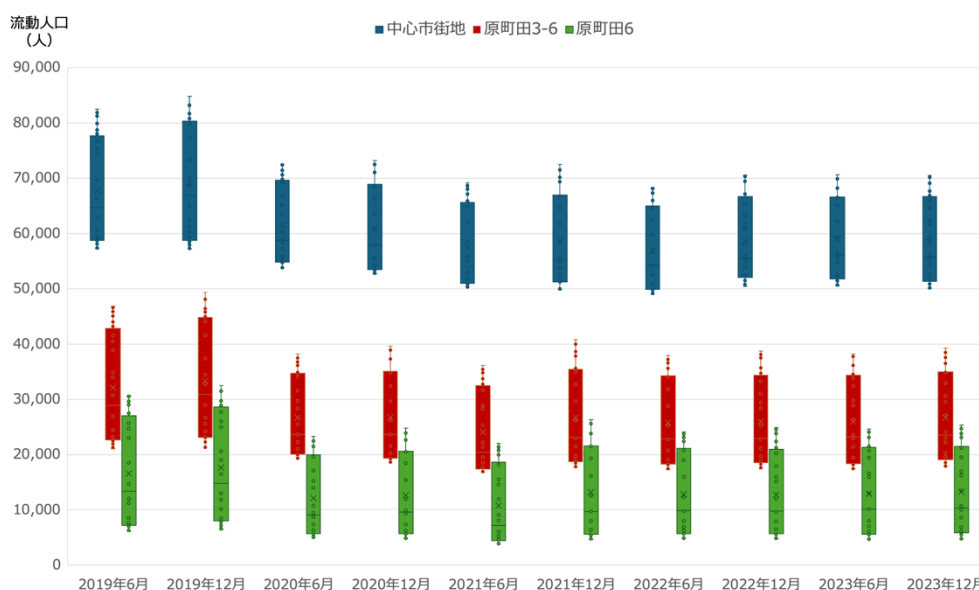
休日の場合、前項で述べた夕刻のピークは観察されていない。深夜（0 時～6 時）の流動人口は平日と比べて大差は見られない。一方、日中（12 時～16 時）のピークは平日に比べ 5,000 人～8,000 人多いことが読み取れる。このことから、仕事よりもプラベートで訪れる人が多いものと推測される。

なお「中心市街地」「原町田 3-6」「原町田 6」の流動人口の変化の仕方がほぼ同じに見える。「中心市街地」および「原町田 3-6」は「原町田 6」を内包しているため、「原町田 6」以外のエリアでは流動人口はほぼ変化していないと考えられる。

図表 4-3-1(i) 中心市街地における新型コロナウイルスの影響 | 平日



図表 4-3-1(j) 中心市街地における新型コロナウイルスの影響 | 休日



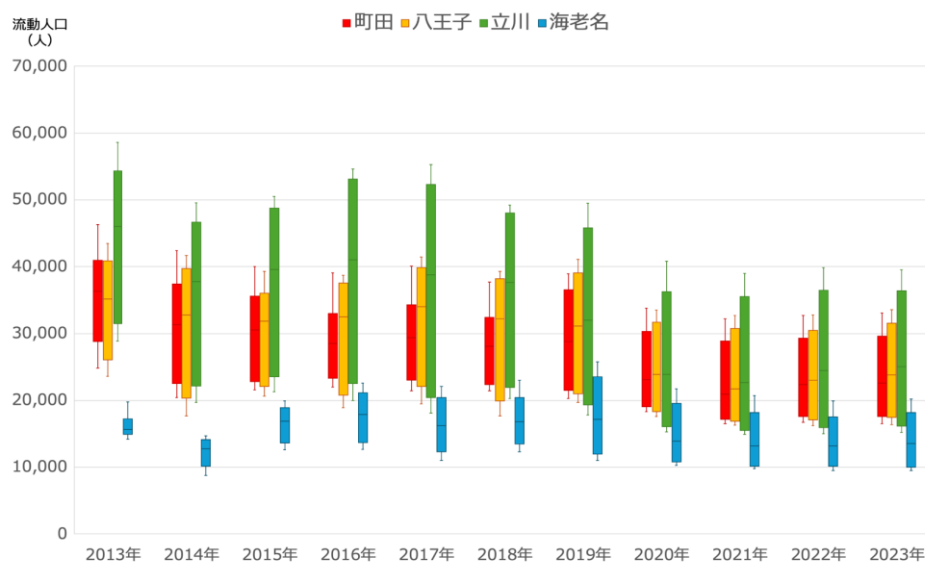
図表 4-3-1(i) 、図表 4-3-1(j) は、中心市街地における新型コロナウイルスの影響を流動人口のデータから確認したものである。データは新型コロナウイルス流行前の 2019 年から、取得可能な最新のもの（2023 年まで）を使用している。

新型コロナウイルスの流行が始まった 2020 年に流動人口が大きく減少し、少なくとも 2023 年までは流行前のレベルに回復できていないことが読み取れる。

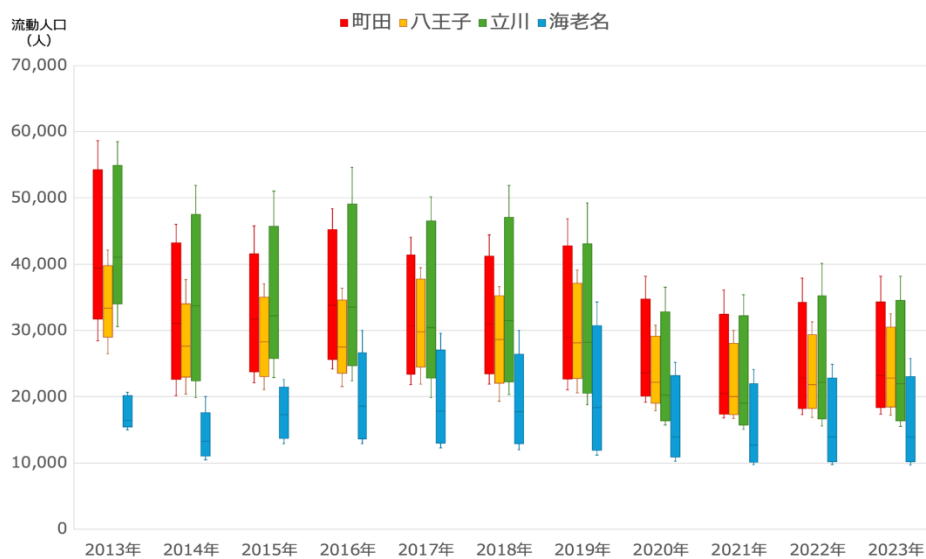
4.3.2 近隣主要駅周辺の流動人口動向

- ・ 町田駅周辺は、休日に流動人口が増える特徴がある。
- ・ 八王子駅周辺は、休日に比べ平日の流動人口が多いという特徴がある。
- ・ 立川駅周辺は、平日と休日の流動人口に大きな差が見られない。
- ・ 海老名駅周辺における休日の流入者が大きく増加傾向にある。

図表 4-3-2(a) 近隣主要駅周辺における流動人口の推移 | 平日



図表 4-3-2(b) 近隣主要駅周辺における流動人口の推移 | 休日



図表 4-3-2(a) 、図表 4-3-2(b) は、近隣主要駅周辺における流動人口の推移を表したグラフである。データ 2013 年から 2023 年までの 6 月のものを使用している。

[共通]

- ・平日・休日共に、2013 年～2014 年にかけて流動人口が減少している。全てのエリアで同じ動きをしているのは不自然な動きであり、データ取得方法に変化があった可能性が考えられる。このため以降の考察では、2013 年のデータを除外している。
- ・平日・休日共に、新型コロナウイルスの流行によって 2020 年に流動人口が大きく減少し、2023 年までその影響が残っている。また、最小値および第 1 四分位の値が下がったままになっている。これは深夜に人が出歩かなくなった状態が続いているという可能性がある。

[町田市（赤色）]

- ・平日：新型コロナウイルスの流行前の 2014 年～2019 年にかけては、最大値が 40,000 人程度、最小値は 20,000 人程度で推移し大きな変化は見られない。新型コロナウイルスの流行後の 2020 年～2023 年にかけては、最大値が 33,000 人程度、最小値は 17,000 人程度で推移している。
- ・休日：新型コロナウイルスの流行前までは、平日に比べ 6,000 人～8,000 人多くの人が入入している。新型コロナウイルスの流行後は、平日に比べ 4,000 人～5,000 人多い程度にとどまっている。
- ・町田駅周辺は、休日に流動人口が増える特徴を持っており、プライベートでの入入者が他の地域に比べて多いものと推測される。

[八王子市（黄色）]

- ・平日：新型コロナウイルスの流行前の 2014 年～2019 年にかけては、最大値が 40,000 人程度、最小値は 20,000 人程度で推移し、ほぼ町田駅周辺と同程度の人が入入している。新型コロナウイルスの流行後の 2020 年～2023 年にかけても、最大値が 33,000 人程度、最小値は 17,000 人程度で推移し、やはり町田駅周辺と類似した動きを見せている。
- ・休日：新型コロナウイルスの流行前までは、平日に比べ 2,000 人～4,000 人程度入入者が少ない。新型コロナウイルスの流行後も、平日に比べ 1,000 人～2,000 人程度入入者が少ない。
- ・八王子駅周辺は、平日に比べ休日の入入者が少なめという特徴を持っており、プライベートでの入入者よりも仕事での入入者が若干多いものと推測される。

[立川市（緑色）]

- ・平日：新型コロナウイルスの流行前の 2014 年～2019 年にかけては、最大値が 50,000 ～55,000 人程度、最小値は 20,000 人程度で推移し、町田駅周辺と比べ 10,000 人～15,000 人程度多くの方が流入している。新型コロナウイルスの流行後の 2020 年～2023 年にかけては、最大値が 40,000 人程度、最小値は 15,000 人程度で推移し、町田駅周辺と比べ 7,000 人程度多くの方が流入している。
- ・休日：新型コロナウイルスの流行前までは、平日とほぼ同程度の方が流入している。新型コロナウイルスの流行後は、平日に比べ 1,000 人～2,000 人程度流入者が少ない。
- ・立川駅周辺は、平日と休日の流入者が同程度という特徴を持っており、仕事およびプライベートにおける流入者のバランスがとれているものと推測される。

[海老名市（水色）]

- ・平日：新型コロナウイルスの流行前の 2014 年～2019 年にかけては、最大値が 15,000 から 25,000 人程度へと大きく増加している。新型コロナウイルスの流行後の 2020 年～2023 年にかけては、最大値が 21,000 人程度で推移している。
- ・休日：新型コロナウイルスの流行前の 2014 年～2019 年にかけては、最大値が 25,000 から 35,000 人程度へと大きく増加している。新型コロナウイルスの流行後の 2020 年～2023 年にかけては、最大値が 25,000 人程度で推移している。
- ・海老名市周辺は近年流動人口の増加率が高くなっている。特に休日の流動人口の伸びが多く、プライベートでの目的地として注目度が向上していると思われる。注目すべきは、2019 年の四分位範囲の大きさ（流入者の多さ）が町田駅周辺に肉薄している点である。新型コロナウイルスの影響で頭打ちになっているが、今後も眼が離せない存在となっている。

4.4 中心市街地活性化への提言

提言 1：中心市街地通行量計測による活性化状況を見る化

現在町田市で実施している「町田駅周辺通行量調査」調査ポイントを中心市街地内にも拡大して設置することを提言します。

- ・ 目的

中心市街地の活性化に向けた施策の効果を評価するための指標として活用する。

- ・ 背景

RESAS などにより市街地全体の流動人口はある程度はわかるが、特定ポイントでの通行量や外部からの来街者数などは不透明であり、データが公開されるまでのタイムラグがある。

- ・ 調査ポイントの設置場所

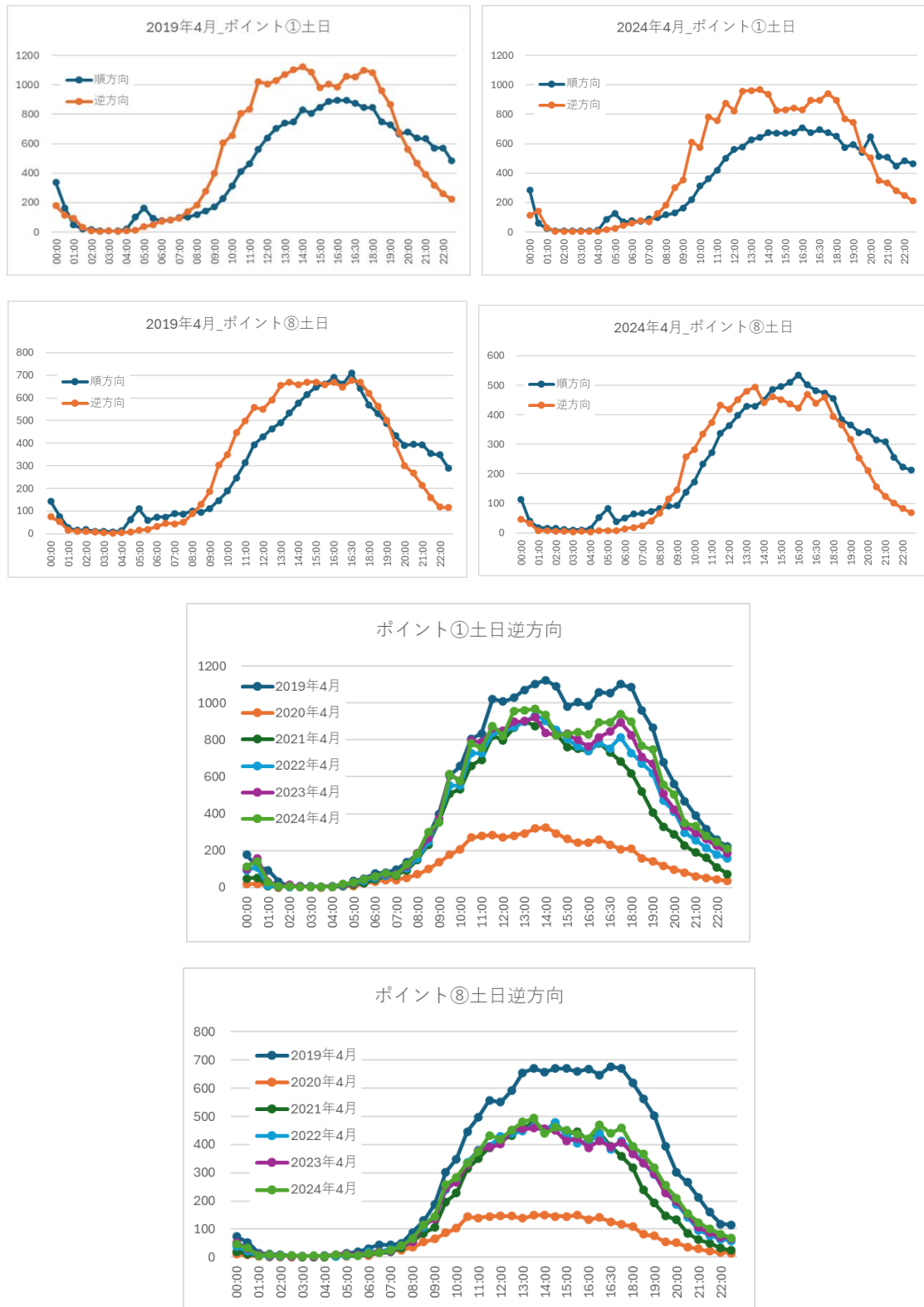
中心市街地の主要道路での流入と流出がわかる場所（交差点付近等）
イベント会場付近

（参考）

町田駅周辺通行量調査データを分析してどのような状況が見えるかを試行してみました。



図表 4-4(a) 町田駅周辺通行量調査結果の分析



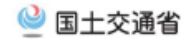
町田駅周辺通行量調査を加工して作成

分析結果から見えること：

- ・各調査ポイントでの時間帯別通行量は、2024 年 4 月では、2019 年 4 月とほぼ同様なパターンを踏襲しているものの、絶対数では 2 割程度減少している。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大が始まった 2020 年 4 月に通行量は大幅に減少したものの、2021 年にはある程度回復した。
しかしながら、その後の回復のテンポは緩やかで同程度の水準を維持したままであり、通行量を増やすためには更なる取組が必要である。
- ・特に調査ポイント⑧は逆方向の落ち込みが大きく、ピーク時で順方向と逆転している。
(市街地からの流出人口の方が市街地への流入人口より多い)
- ・中心市街地への流入人口を評価する上で重要となる①と⑧の逆方向について：
調査ポイント①は 2019 年時点の 80%程度にまで回復しているが、
調査ポイント⑧は 2019 年時点の 70%以下に留まっている。
- ・調査ポイント⑧からの流入人口が減っていることから、中心市街地内の通行量パターン
(活性化の濃淡パターン) に変化が起きていることが推定される。
例えば、中心市街地の東方面(原町田 2 丁目～4 丁目)への来街者が減少しているなど
⇒中心市街地内に調査ポイントを設置することにより見えてくる

(参考資料)

まちの活性化を測る歩行者量調査のガイドラインの概要



○コンパクト・プラス・ネットワークの取組みを各地方公共団体で効果的に進めるために、まちの活性化を測る代表的な指標である「歩行者量」について、まちの活性化との関係を検証し、目標設定の考え方、新たな調査手法等を示した「**まちの活性化を測る歩行者量調査のガイドライン**」を策定

まちの活性化と歩行者量は相関

・まちの活性化度合いを表す経済的指標（店舗数、売上高、地価）と歩行者量とは一定の相関があり、歩行者量を指標とし、継続的に計測し分析・評価することは、**地域活性化の取組みを効果的に進めることに有用**

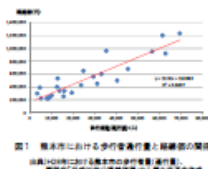


図1 都市における歩行者通行量と経済的指標の相関
(※調査対象は、調査対象都市の歩行者通行量、店舗数、売上高、地価、人口など)

まちなかの歩行者量の特性

・通勤、買物等の様々な**通行目的**が含まれる
・通行目的、曜日、地区の特性により**時間変動**がある
・**地点による差**がある

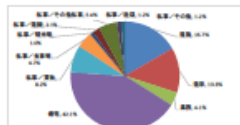


図2 歩行者の通行目的（平均）
(※調査対象は、調査対象都市の歩行者通行量、店舗数、売上高、地価、人口など)

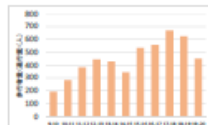


図3 都市中心部の歩行者の通行量の時間変動
(※調査対象は、調査対象都市の歩行者通行量、店舗数、売上高、地価、人口など)

指標と目標設定の考え方

・どのような都市像を目指し、施策効果が検証可能な指標となっているのか、その**指標が意味することを明確にして設定**することが重要

歩行者量の調査方法

・施策の効果を的確に分析・評価するためには、計測日を多く設けた安定的なデータ取得や複数地点の計測による面的なデータ取得が必要
・従来の人手による調査では、コスト的に困難であった24時間365日の計測や面的な計測が、**カメラ画像解析等の新技術**により可能（計測条件の整理や精度検証を実施）

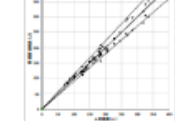


図4 カメラ画像によるデータ取得のイメージ図

図5 人口調査と調査対象都市の経済的指標の相関



図6 カメラ画像によるデータ取得の様子

調査方法	特徴	留意点
1) 目視調査	・カメラ映像から歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能 ・カメラ映像から歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能	・カメラ映像から歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能 ・カメラ映像から歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能
2) Wi-Fiデータ	・Wi-Fiデータから歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能 ・Wi-Fiデータから歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能	・Wi-Fiデータから歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能 ・Wi-Fiデータから歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能
3) センサーデータ	・センサーデータから歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能 ・センサーデータから歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能	・センサーデータから歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能 ・センサーデータから歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能
4) カメラ画像解析	・カメラ映像から歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能 ・カメラ映像から歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能	・カメラ映像から歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能 ・カメラ映像から歩行者の通行量、通行目的、通行方向などを把握可能

新技術を活用した歩行者通行量調査の活用事例



○カメラ画像解析による歩行者量調査事例（豊田市）

・中心市街地の21地点にカメラを設置して365日計測。
（計測時間帯5:00～24:00）
・中心市街地で実施する各種事業の効果を検証し、今後の中心市街地活性化施策を検討するための基礎資料とする。



豊田市中心市街地歩行者通行量調査カメラ設置計画図

・計測結果が正確で、過去の計測結果との比較が容易

○Wi-Fiデータによる人流調査事例（仙台市）

・仙台市街地において、Wi-Fiセンサーを主要な地点（11地点）に設置して歩行者の人数、経路、頻度等を計測。
・歩行者の回遊経路の傾向を把握。



Wi-Fi計測装置

・効果的な歩行空間・沿道施策の検討に活用

○カメラ画像解析による歩行者量調査事例（六本木商店街振興組合）

・主要な地点において、カメラ画像を活用して歩行者数を計測。
・計測データをもとに商店街の施策を検討。
・来街者の属性に応じたサイネージコンテンツの切り替えを実施。



六本木商店街振興組合の歩行者量調査の概要

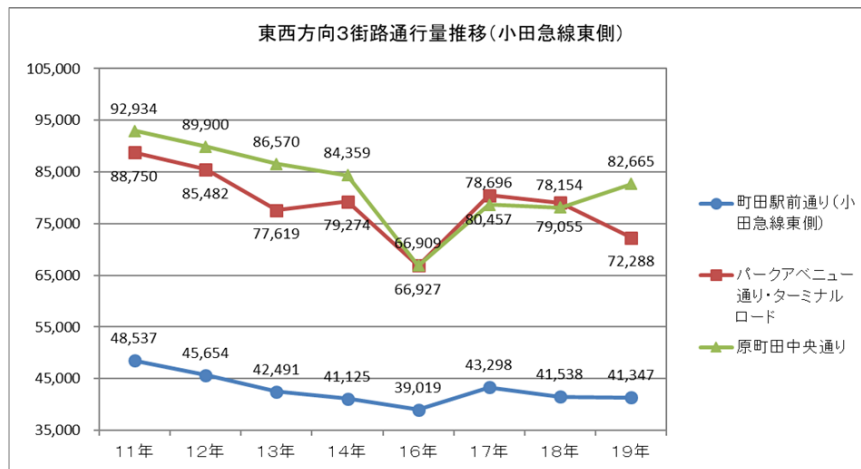


・感覚的に捉えていた通行量や属性を客観的に見ることが可能
・関係者との調整の場における説得力のある根拠データ

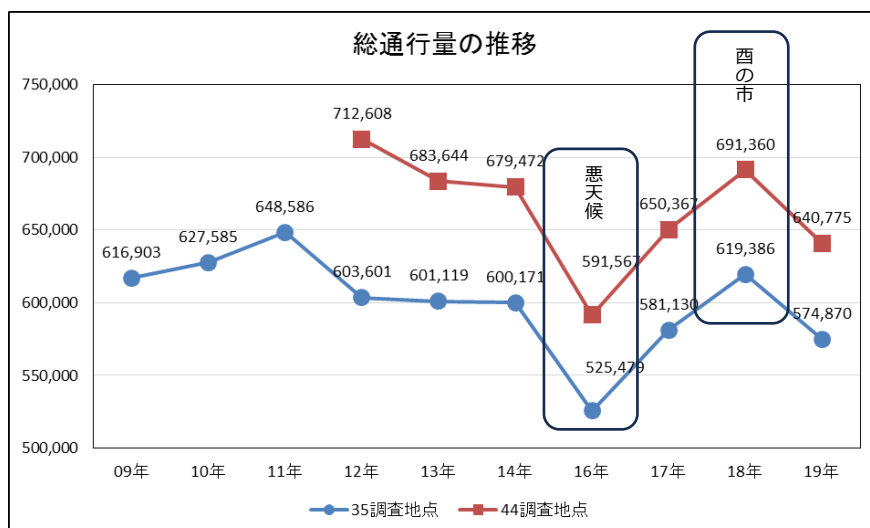
歩行者量調査のガイドライン（国土交通省） |

図表 4-4(b) 2019 年まで実施していた町田市中心市街地通行量調査結果

(a) <小田急線東側> 街路ベル通行量



(a) 中心市街地全体の総通行量



※35 調査地点：調査地点 1～35 の合計

44 調査地点：調査地点 1～44 の合計（2012 年より観測地点を追加）

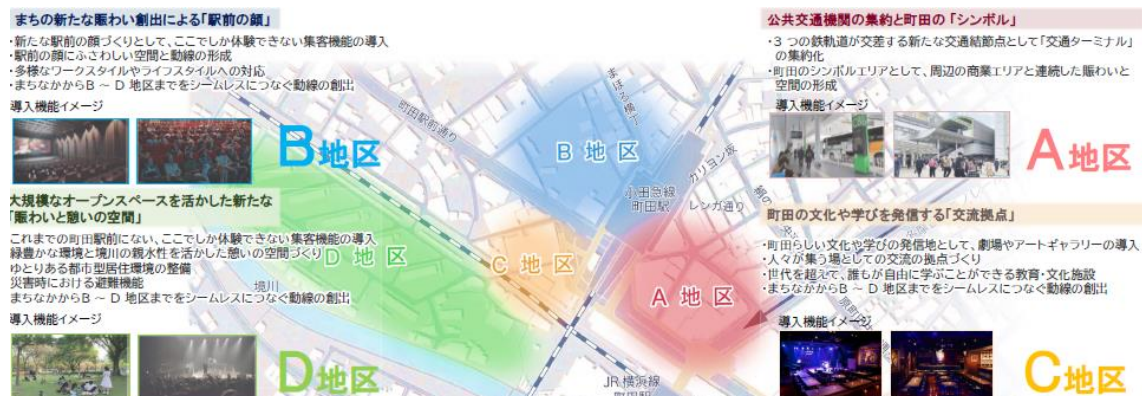
（出典：町田市中心市街地通行量調査報告書（2019 年 11 月 24 日実施））

・経年変化を見ることにより通行量のおおまかな変動はある程度評価することができた。

・問題点

- ・調査日の天候やイベント（祭り）などの影響により通行量が大きく左右される。
- ・平日と週末での状況の違いが不明確
- ・人手による計測時間帯の制約（11 時～19 時）

提言 2：中心市街地の地域ブランディング



町田駅周辺開発推進計画のキーワード：

町田駅周辺の魅力

- ・ 商業集積地としての賑わい
- ・ 水や緑を感じる豊かな自然
- ・ 都心や観光エリアへの交通の利便性
- ・ 多くの人が集まる活気あるイベント
- ・ アートやスポーツといった魅力あるコンテンツ

開発推進地区

A 地区：町田のシンボルエリア、周辺の商業エリアと連続した賑わいと空間の形成

B 地区：まちの新たな賑わい創出による「駅前の顔」

C 地区：町田の文化や学びを発信する「交流拠点」

D 地区：緑豊かな環境 ゆとりある都市型居住空間

町田の歴史

- ・ 1586 年に「二の市」が開かれ、「六の市」が加わって「二・六の市」として賑わう。
- ・ 明治時代に入り横浜港の開港によって生糸が主要な輸出品目となると、八王子から横浜を結ぶ「絹の道」の中継地として繁栄。
- ・ 1902 年の横浜線開通、1927 年の小田急線開通により、交通の要衝として発展。

(小田急線開通から 100 周年)

地域ブランディング（案）（ブランド名称：SILK2.0）

S:Shopping	買物をしたい街
I:Innovation	新たな賑わいが創出される街
L:Lively Life	緑豊かな活気のある居住空間を楽しむ街
K:Knot	交通の要衝、交流の場として人々を結びつける街

具体的な取組（案）

- 「絹の道」と「二・六の市」の碑を使った町田の歴史をアピール
- まちだシルクメロンのような“シルク”ブランド商品の開発と展示・販売拠点づくり
（「出沒！アド街ック天国」テレビ東京（2025年1月25日（土）午後9時から放送）
- 新しい「二・六の市」の定期開催による来街者の呼び込みを定着化
商店街での共同特売、謎解きゲーム等による変化する街の探索（デジタル技術を活用）、
FC 町田ゼルビア、ASV ペストカドーラ町田等との協賛イベント開催
- “シルク”をイメージした街並空間づくり
シルクのイメージ：高級、希少価値、美しい、美容と健康に良い
- 2027年（小田急線開通100周年）に大々的に宣伝

提言 3：中心市街地の流動人口増加策

[町田市中心市街地の現状]

以下は、第 4.2 節および第 4.3 節の中で述べた町田市中心市街地の現状である。

- ・「小売・卸」業において、中心市街地で「繊維・衣料」「食料品・嗜好品」「化粧品・装身具・装飾品・民芸品」が大きく減少している（図表 4-2(c) および図表 4-2(d)参照）。
- ・中心市街地で「飲食店」が減少傾向にあり、特に「スナック・バー・酒場」の減少が著しい（図表 4-2(e) および図表 4-2(f)参照）。
- ・新型コロナウイルスの流行が始まった 2020 年以降、流動人口が大幅に減少し、少なくとも 2023 年までは流行前の水準に回復していない（図表 4-3-1(i) および図表 4-3-1(j)参照）。
- ・町田駅周辺は休日の流動人口が多く、プライベートでの流入者が他地域に比べて多いと推測される（図表 4-3-2(a) および図表 4-3-2(b)参照）。
- ・立川駅周辺は平日と休日の流入者数が同程度で、仕事とプライベートのバランスが取れている。町田駅周辺は平日の流入者数が少なく、バランスが取れていない。
- ・海老名駅周辺では近年、流動人口の増加率が高い。特に休日の流動人口の伸びが顕著で、プライベートの目的地として注目度が向上している。近隣都市からの流入者が海老名駅周辺へ流れるリスクが高まっている（図表 4-3-2(a) および図表 4-3-2(b)参照）。

[町田市中心市街地の課題]

上記現状を踏まえた町田市中心市街地の課題は、以下の通りと考える。

- ・休日：町田駅周辺はこれまで近隣駅の中では休日の流入者が多かったが、海老名駅や郊外のショッピングモールに人の流れが移りつつある。ショッピングモールのような画一的な集客とは一線を画す取り組みにより、前述のリスク軽減を図る必要がある。
- ・平日：町田駅周辺の流動人口は休日に比べて少ない。飲食店や小売店、各種サービス業など、町田駅周辺で B2C 事業を営んでいる事業者目線で考えると、現状は事業の安定化を図りづらいと言える。このため、平日の流動人口増加は大きな課題と考えられる。

[課題に対する施策案]

1. 体験型施設の導入（休日および平日対策）

町田市では、地元飲食店や農業者が連携し、クラフトビール「カワセミブリュー」を開発・販売している。町田駅前には醸造設備を併設したビアレストラン「武相ブリュワリー」が新

設され、地場産の農作物を活かしたメニューも提供している⁵。こうした事例を応用し、平日・休日を問わず多世代が集まる場を形成する。具体的な施策案を以下に示す。

- ・ e スポーツアリーナ

若年層をターゲットにした施設。地域主催の大会を開催し、町田市の新しい魅力を発信する場とする。

- ・ スポーツアクティビティセンター

インドアスポーツ（ボルダリング、バーチャルゴルフ、トランポリンなど）が楽しめる施設。雨天でも利用可能なため、安定した集客が見込める。

- ・ 健康増進エリア

ヨガやピラティスのレッスン、地元の薬膳料理を組み合わせた健康プログラムを提供。高齢者や健康志向の高い層をターゲットにする。

- ・ 都市型アウトドア施設

屋上緑化を活用したグランピングスペースやバーベキュー施設を設置。都市部にいながらアウトドア体験が楽しめる空間を提供。

- ・ 子ども向け科学体験館

実験や科学ショーを通じて、学びと遊びを融合させた施設。家族連れを中心とした集客を目指す。

- ・ パフォーマンススペース

演劇、音楽、ダンスのワークショップを開催できる多目的施設。プロのパフォーマンスを定期的に行い、幅広い層の集客を図る。

2. 企業誘致策（平日対策）

町田市では、市内に新規立地や増設を行う企業に対し、固定資産税や都市計画税、事業所税の減免などの奨励金を交付している⁶。これら施策をさらに発展させ、中心市街地へのビジネスパーソンの流入を促す施策を実施する。これにより、平日の流動人口を増加させる。具体案を以下に示す。

- ・ 税制優遇

町田中心市街地に新規オフィスを設立する企業に対し、固定資産税や法人市民税の一部免除を実施。条件として、一定数以上の雇用創出や地元企業との取引促進を設定。

- ・ 賃料補助

⁵ 情報源：[町田市ホームページ](#)

⁶ 情報源：[町田市ホームページ](#)

中小企業やスタートアップがオフィスを開設する際、賃料の一部を一定期間補助。特に町田駅周辺の空きテナント活用による空室率の低下も目指す。

- ・助成金プログラム

デジタル関連や環境対応型事業を行う企業を対象に、新規事業立ち上げや設備投資の費用を助成。政府系助成金への上乗せ策も併せて検討する。

- ・テレワーク促進企業への支援

テレワークを推進する企業に対し、町田中心市街地のサテライトオフィス利用にかかる費用を補助。

- ・サテライトオフィスの集中エリア構築

町田駅周辺に「サテライトオフィス街区」を形成し、複数企業が利用できるエリアを整備。ビジネス支援施設、飲食店、宿泊施設を併設し利便性の向上を図る。

- ・プロモーション強化

首都圏や海外企業に対し、町田市がビジネスに最適な立地であることを発信。環境に配慮した都市開発や先端技術活用を併せてアピールする。

- ・企業間コラボレーションの促進

町田中心市街地に進出する企業と既存企業をつなげるネットワーキングイベントやコラボプロジェクトを支援。